

下肢静脈瘤

川口市立医療センター
心臓血管外科 **きたなか ようすけ**
北中 陽介



下肢静脈瘤とは足の血管が拡張し、こぶのようになる病気です。下肢静脈瘤は、脚のだるさ、むくみやこむらがえり、進行すると色素沈着や皮膚潰瘍などの症状が出てきます。特に昼過ぎから夕方にかけて症状が強くなるのが特徴です。

静脈の中には静脈弁があり、血液の逆流を防止しています。この弁が壊れると、血液が逆流します。血液が溜まった状態が長時間続くと、徐々に静脈の壁が引き伸ばされて太くなり、静脈がグネグネと曲がりくねった状態となります。この状態が「下肢静脈瘤」です。

下肢静脈瘤は、日本人の約9%にみられ、患者数は1,000万人以上いるという報告もあります。また、男性よりも女性に多い疾患です。

診断は、下肢超音波検査で行います。治療は、血管を引き抜く(ストリッピング)手術、カテーテルを使用し、血管の内側から焼いてふさぐ血管内焼灼術(ラジオ波治療やレーザー治療)、医療用の血管接着剤を用いた血管内接着剤治療、静脈に薬剤を注射して固める硬化療法、手術や薬剤を用いず、運動やマッサージなどによる生活習慣の改善や弾性ストッキングの着用を中心とした保存的治療があります。

下肢超音波検査の結果をもとに、患者の背景、既往歴などを総合的に判断し、最善の治療法を決定します。当院では下肢静脈瘤治療の専門医、指導医が在籍しております。心当たりのあるかたは、一度、近隣のお医者さんにかかっていたり、当院での診療が必要な場合は、紹介状をご持参の上、お越しください。

気温が上昇する夏は食中毒に注意

～7月1日から8月31日は夏期食中毒予防対策月間～

「新鮮なお肉だから安全」ではありません

食中毒の原因となる細菌やウイルスは、生や加熱不十分な肉に付着していることが多くあります。「新鮮だから」「禁止されていないから」といって、安全とは限りません。お肉は生で食べず、中心部まで十分に加熱して食べましょう。



目安は中心温度75℃で1分以上加熱

生肉に付着している主な食中毒病原体

牛 腸管出血性大腸菌 (O157, O111など) カンピロバクター	豚 カンピロバクター サルモネラ属菌 トキソプラズマ E型肝炎ウイルス	鶏 カンピロバクター サルモネラ属菌
-------------------------------------------------	--------------------------------------------------------	---------------------------------

生野菜や果物でも食中毒のリスクが...

野菜や果物を生で食べる時は、以下のことを心掛けましょう。

- ・冷蔵庫で保存する
- ・よく洗う
- ・新鮮なものを購入し、なるべく時間が経たないうちに食べる

二次汚染に注意しましょう

- ⚠️ 肉や魚を切った包丁・まな板で野菜や果物を切らない
- ⚠️ 調理前、盛付け前などはよく手洗いをする



問 食品衛生課 ☎048-423-7889 FAX048-423-8852

イベントスケジュール

10日(日)まで

特別展
「たまご展～命をつつむカプセル～」
場 科学館



→2ページ



川口市 広報課 職員による
ちょっとくだけた!? 市政情報番組

85.6 MHz **City Information**

FM Kawaguchiで放送中

放送日: 平日の10分間...10:00, 13:50, 17:50, 20:00

LINE ID @kawaguchi.city

川口市 公式アカウント

※きらり川口情報メールと同じ内容の受信も可能

暮らしに役立つ ぜひご利用ください

きらり川口情報メール



ひと 三浦のしつけ糸

湊部屋 女将 **三浦 真さん**
みづら まこと

直径15尺の土俵の内で屈強な男たちがぶつかり合う。閑取になれるのは、ほんの一握りの厳しい勝負の世界、相撲。芝中田にある「湊部屋」でも高みを目指し、力士たちが切磋琢磨している。そんな彼らが人としても成長できるよう支えているのが、現役の医師でもある異色の女将、三浦真さん。

夫である親方が先代から部屋を引き継ぐことに。相撲のことは無知。右も左も分からない状態でした。クリニックの院長の職と二人の子どもの子育てに、相撲部屋の女将の仕事が加わり、睡眠もままならぬほど多忙を極めた。経理に涉外、力士の送り迎えから健康管理まで多種雑多な女将の仕事。中でも最も重要なのは弟子たちの躰(からだ)という。湊部屋の力士の多くがま

だまだ未成熟な15歳で門を叩く。「お預かりした時から、自分の子どもだと思っていま

す。挨拶や礼儀など、人として当たり前のことができていますか、常日頃、目を光らせています」。第2の母として、社会で生き抜くための素養と、厳しい相撲界のしきたりを教え込まなければならぬ責任と覚悟。院長の職を辞することにためらいは一切なかった。「常に、何をしなければならぬかを考え、最適な行動をとりたい」。同じく医師であった母に小さい頃から口を酸っぱくして言われた言葉だ。

弟子たちには冷静かつ客観的に考える力を身に付けてもらいたいと、「私ならこうする」「私はこう思う」といった自分の考えを押し付けられない会話を大切にしている。

部屋から優勝力士、横綱を



出すことも、もちろん切なる願いだ。彼らが湊部屋で過ごす日々は人生の通過点。力士を引退して何年、何十年後、湊部屋で、人として成長できたなと思ってくれたら、私は幸せです。」と笑顔で語る。

「躰は仕付けという言葉が気に入っています。服を仕立てる時、形が崩れないよう本縫いの前に行う「仕付け」。出来栄を左右するが、完成すればはずされ、跡は残らない。10代という人間形成の最も重要な時期に預かった弟子たちに、母の愛情で丁寧に縫いつける、女将の「心のしつけ糸」。

彼らが一人前になりその糸がはずされても、整えられたかたちは変わることなく、彼らの人生を支えていく。(治)